

感謝を忘れずに

加藤 元誠

みなさんは、感謝をするということについて深く考えたことはありませんか。

ぼくは、ときどき感謝をわすれてしまうときがあります。それは、お母さんやお父さんにせんとく物や、食器洗い、夕飯作りなどをやっでもらっているとき、ぼくは、ゲームに夢中になっていて、感謝の気持ちをわすれてしまします。感謝の気持ちとは、やさしさや

手助けなどに対して、ありがたいと感じて礼を述べることで、また、ありがたいと感じることです。このように、ふだん当たり前にあるものや人のありがたさに、なかなか気付けない人も多いのではないでしょうか。それには、気付くためには、まず一つ目は、体験からです。ぼくは、小学校三年生から習字を習っていて、小学校一年生からサツカーを習っています。いつも習字が終わったあとや始まる前には、感謝の気持ちをこめて、あいさつをし

ます。それは、正座をして、「先生よろしく
おねがいします。」先生ありがとうございま
した。と言。ておいきをするものです。ぼく
は、小さい時から人見知りのところがあり、
先生に対して積極的に感謝の気持ちを持ち、
それと相手に伝えることをはずかしいと思っ
ていました。なので、今まであんまり元気に
す直に伝えられていませんでした。小学校一
年生から習っているサッカーも同じように、
コーチやかんとくに、ディフェンスやドリブ

ルを教えてもら。たときに、感謝の気持ちを
伝えることができませんでした。コーチやか
んとく、先生からしたら気分が悪くなっ。し
まうと思います。これから、たくさん感謝
の気持ちやありがとうを伝えていきたいです。
そして、そこからいろんなことを学んでいき
たいと思いました。二つ目は、ありがとうや
感謝の気持ちの反対の言葉を知。たときに、
改めて、人のありがたさに気付くことができ
ました。ありがとうの反対の意味の言葉は、

「あたりまえ」だそうです。それを知ったのがインターネットです。それを知ったときになるほどと思いました。人に何かをしてもらうのが「あたりまえ」ではなく、何事も「ありがとう」という気持ちをわすれてはいけな
いと思いました。ふだんの生活の中では、つい感謝の気持ちをわすれてしまうことはたくさんあります。ぼくも、これまで感謝の気持ちをわすれてしまっていたので、相手に対して申し訳ない気持ちでいっぱいです。

感謝の言葉「ありがとう」には、人と人との心のきよりを近づけるとても不思議な力があると思っています。このことは、実際にぼくみたいに体験してみないと深く感謝の気持ちについて分からないと思います。ぼくには兄弟がいるので、お兄ちゃんやお姉ちゃんはもちろん、お父さんやお母さんにたくさんたぐさん「ありがとう」を伝えていきたいです。その気持ちをっねにわすれずに、いい大人になっ
ていきたいです。